

高齢者あんしんサポート事業について

超高齢社会の進行に伴って、ひとり暮らし高齢者や高齢者のみ世帯、認知症高齢者も増加の一途をたどっており、孤独死も含めた高齢者の孤独・孤立の深刻化や認知症による行方不明の多発など、顕在化している様々な課題への対応が急務となっている。

本事業は、こうした課題への対応策の一つとして、市民協働・公民協働の下で、高齢者の見守り体制の充実や、高齢者が人生の最期まで見据えて自分らしく生きるための「終活」を支援することを目的として、各種支援を実施する。

1 ICT を活用した高齢者見守り支援「みまもりあい事業」（新規）

民間事業者と連携して、「みまもりあいアプリ」を活用した認知症等高齢者の見守りサービス（高齢者が行方不明になった際の発見支援）を提供。要件に合致する希望者には、行方不明になった際に発見者から家族等に連絡できる緊急連絡用ステッカー「みまもりあいステッカー」を配布する。同ステッカーでは、匿名化された ID から独自の転送システムで家族等に連絡が付くため、家族等の個人情報の公開は不要

参考【第 9 期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画での位置付け】
第 4 章 3 高齢者が安心して暮らし続けられる都市・住まいの基盤整備
(4) 高齢者等への見守り支援

2 高齢者徘徊 SOS ネットワーク事業（継続）

認知症等で行方不明になった高齢者等を発見するため、警察捜索の補完的なものとして、行方不明になった際の服装や身体的特徴などを協力者にメール等で配信

参考【第 9 期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画での位置付け】
第 4 章 3 高齢者が安心して暮らし続けられる都市・住まいの基盤整備
(4) 高齢者等への見守り支援

3 「人生会議」の普及啓発（新規）

人生の最終段階における医療や介護について話し合う「人生会議／ACP（アドバンス・ケア・プランニング）」について、医師会等の関係機関と連携し、セミナー開催や広報媒体の作成等、市民向けの普及啓発を実施

参考【第 9 期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画での位置付け】
第 4 章 5 在宅ケアの充実及び連携体制の整備
(1) 在宅医療・介護の連携強化

4 市民向け終活セミナー・終活相談支援の実施

民間事業者と協定を締結して、市民向けの終活セミナーや終活相談支援（電話相談窓口等）を実施

参考【第 9 期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画での位置付け】
第 4 章 5 在宅ケアの充実及び連携体制の整備
(6) 市民への情報提供の充実や意識の啓発

認知症高齢者等を事前に登録し、衣類等に貼付できる緊急連絡用ステッカー「みまもりあいステッカー」を配付。行方不明になった際に、スマートフォン用見守りアプリ「みまもりあいアプリ」を通して協力者に搜索協力依頼を行い、発見者はステッカーから家族に連絡可能。アプリとステッカーを利用することで、個人情報保護した形で、効果的に行方不明になった方の発見につなげることが可能に！

【 アプリとステッカーを活用した見守り事業のイメージ 】

